

門真市立小・中学校におけるキャリア教育の現状と課題、及び今後の方向性について

○キャリア教育の定義（文部科学省）

一人一人の社会的、職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」について（答申）」

（平成 23 年 1 月 31 日）

○学習指導要領におけるキャリア教育についての記述

児童（生徒）が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、特別活動を重要としつつ、各教科の特性に応じて、キャリア教育の充実を図ること

小学校（中学校）学習指導要領 第 1 章総則 第 4 の 1（平成 29 年 3 月）

○門真市におけるキャリア教育の現状と課題について

現状

- ・中学校における職場体験学習や職業講話の充実
- ・各中学校区で「めざす子ども像」を検討し、各中学校区における「キャリア教育全体指導計画」を統一して作成
（中学校区の各学校の学校教育計画に同じものを掲載）
- ・キャリア・パスポートの作成・活用
 - ※児童・生徒が小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ）

課題

- ・小学校において、キャリア教育に関する教職員の理解や、キャリア教育に関する校内体制が不十分
- ・全体指導計画等、キャリア教育に関するカリキュラムが 9 年間のキャリア発達を意識して系統的に作られているかどうか。
- ・各中学校区で作成されており、市として統一性に欠けるところも見られる。
- ・日々進歩する時代に合わせて、全体計画も適宜更新していくことが必要。
- ・自己肯定感や自己有用感を高めることが必要。

今後の方向性

- ・第 2 期門真市教育振興基本計画に「門真市キャリア教育指針」の作成を明記
 - ※各校で方向性が一定統一できるように、キャリア教育において育成していく基礎的・汎用的能力（①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力）や、実践方法等を示していきたい。
 - ※また、「キャリア教育担当教員」と連携し、各校の実践、課題や意見を取り入れ、各学校の実態に即した、実際に「活用できる」指針を作成したい。